

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4092600057		
法人名	株式会社 小田コーポレーション		
事業所名	グループホーム 真心		
所在地	〒824-0026 福岡県行橋市道場寺1274 - 1	0930-26-3030	
自己評価作成日	平成24年7月8日	評価結果確定日	平成24年08月13日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

なにか懐かしく思える温かみのあるホームです。室内の天井は吹き抜けて圧迫感がなく、木の匂いが香る落ち着いた雰囲気になっています。又ホーム前は草原が広がり、春は、菜の花、桜、桃の花、蓮華草など、沢山のお花が広がります。又介護理念は思いやりを持ち優しく笑顔で接します。の通りの介護を行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

郊外の緑に囲まれた自然環境の中に、グループホーム「真心」がある。「思いやりを持ち、優しく、笑顔で接します」という理念を、管理者と職員は、毎朝唱和し理解して、利用者の目線に合わせた介護サービスを実践し、家族からの信頼は深いものがある。広い敷地の中には、野菜や果物畑が広がり、11匹の鶏が暮らせる鶏舎を建て、利用者を楽しんでもらっている。リビングルームは吹き抜けて、天窓からの明りは柔らかく、利用者が穏やかに過ごせる環境である。利用者職員は、地域の神幸祭、清掃活動に参加し、公民館の展示会に作品を出展したり、ホームの夏祭りには地域の方が参加する等、開設2年目ではあるが、活発な地域交流が始まっている。今後は、地域の高齢化に合わせて、介護相談や、独居老人の安否確認等に取り組んでいくことを検討している「真心」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5 - 27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 23年07月31日		

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を玄関口に掲げ毎日の朝礼で唱和している。	「思いやりを持ち、優しく笑顔で接します」というホーム独自の理念を掲げ、毎朝唱和し、言葉としては簡単なこの理念を、職員一人ひとりが理解した上で、利用者に寄り添い、真心で接する介護サービスを実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。又イキイキサロンと地区の行事があり今後それに参加する予定。	利用者と職員は、地域の神社の祭りや清掃活動に参加し、市主催のいきいき作品展に手作りの作品を出展する等している。散歩時に近所の方と挨拶を交わし、ホームの夏祭りに地域の方の参加もあり、交流が始まっている。また、地域のいきいきサロンに参加する事を検討中である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後認知症サポーター養成講座などを開催して地域の方に理解をして頂こうと思う。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催している。又地域の方、ご家族の方、行政の方のご意見を参考に取り組んでいる。	会議は利用者、家族、地域、行政の参加のもと、2ヶ月毎に開催している。ホームの現状、予定、課題等報告し、参加者から意見や質問が出され充実した会議になっている。さらに、会議を活発にするために委員の拡充を図り、地域密着型として協力関係を築く事を検討している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に介護保険課や地域包括センターに顔を出し、分らない事あればすぐに確認をしている。	運営推進会議に行政関係者が4名出席する等ホームの現況を理解してもらったうえで、アドバイスを受けている。また、介護相談専門員の定期訪問もあり、行政との連携が確立している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていません。又拘束を行わないように勉強会を行っている。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、内外の研修に職員が参加し、利用者に対して拘束がどのような弊害をもたらすかを理解し、職員間で常に話し合い、拘束をしないケアの実践を目指している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフがストレスを溜めないように心身のチェックを行っている。又虐待防止マニュアルで研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的勉強会を開催しレベルアップに努めている。	現在該当者はいないが、研修受講、内部勉強会等で、職員全員が制度に関する理解を深め、利用者、家族が制度を必要とする時にいつでも説明し、橋渡しができる体制を作っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず十分な説明を行い、契約を交わしている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し家族や、地域の方が来所した時に意見が出せるようにしている。	玄関に意見箱を設置し、苦情相談窓口を掲示しているが、意見はあまり出ない。家族の面会時や電話、郵送等を利用し、家族の意見や要望を聞き取る努力をしている。出された意見を出来るだけホーム運営に反映するよう努めている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフミーティングを持ち、意見を交わしている。	職員会議、カンファレンスを毎月開催し、職員が意見を出しやすい環境を整えている。話し合いの場では、活発な意見交換が行なわれ、出された意見は出来るだけホーム運営に反映させている。また、毎月の目標を振り返る大切な機会にもなっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に自己評価又は第三者評価を行い、給与に反映している。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用は年齢、性別、経験不問で採用している。又採用時にどのような思いで働くかを確認している。	職員の採用は、資格や年齢、性別の制限はなく、人間性や協調性を重視している。また、職員がフレッシュし生き生きと勤務出来るよう、休憩室の整備等も検討している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に勉強会を行っている。	理念を毎日唱和し、正しく理解し、利用者に安心して暮らして頂くために職員全員が思いを共有し、利用者の人権を尊重する取り組みが始まっている。また、行政主催の研修会に参加し、内部研修で、職員が理解出来るよう工夫している。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一回のグループホーム協議会に参加しおり、意見交換をしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人の不安や要望を十分に聞き生活支援に取り組んでいる。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず家族の方の不安や要望を十分に聞き生活支援に取り組んでいる。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には必ず家族と本人から十分に聞き何を求めているのかを把握しサービスに努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、一緒に掃除や食事の準備しもらい、コミュニケーションを図り、信頼関係を作っている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、家族に情報提供をして関係を維持している。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで使っていた物など持ってきて頂き、又馴染み方とお話したいときは電話や手紙の支援をしている。	昔の友達、近所の方、遠い親戚等が訪ねて来られ、利用者の喜びとなっている。また、馴染みの美容室やお店への同伴等、利用者の昔からの関係継続の支援に努めている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は全員極力居間に出てきて頂き、コミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、不安や心配が無いが、ご連絡している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方から良く話し聞き何を求めているかを把握し無理の無いような対応をしている。	職員は常に思いやりを持ち、利用者に真心で接し寄り添いながら、利用者の希望、意向の把握に努めている。また、意向表出の困難な利用者に対しては、アセスメントや介護記録を見直し、家族に相談し、利用者の思いが叶うよう努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族等から生活暦等よく聞きサービスの向上に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースあった過ごし方をして頂き残存能力を活かした生活をしている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的のカンファレンスに基づき介護計画を作成している。	介護計画は6ヶ月毎に見直し、事前に利用者や家族の希望を聴き、関係者で検討し、作成している。また、利用者の急変時には家族と連絡を取り合い、主治医の意見を聞き、話し合い、介護計画をその都度見直している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録や支援経過を参考に介護計画の見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日その時にあわせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>訪問美容、訪問マッサージなどで地域の方と交流を活かしている。</p>		
32	14	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>各入居者に応じた通院や往診又は受診援助を行っている。</p>	<p>利用者や家族の希望を聴きながら、かかりつけ医の受診支援をしている。協力医療機関による月4回の往診や訪問歯科等、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
33		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>各かかりつけの病院の看護職と連携をとり情報交換を行っている。</p>		
34		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>各かかりつけの病院の医師や看護師と連携をとり情報交換を行っている。</p>		
35	15	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化になった場合と看取りについての同意書を交わしている。</p>	<p>重度化や看取りについての指針を作成し、利用者や家族の承諾を取り、重度化に向けた支援体制が整っている。今後、重度化が進む中で、職員との質の向上、チームワーク、そして、家族との協力体制を深めながら、いつまでも安心して暮らす事が出来るための支援を実施している。</p>	
36		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に勉強会、訓練を行い備えている。</p>		
37	16	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>3月と9月に消防訓練をおこなっている。</p>	<p>年2回避難訓練を実施し、近隣に住む職員の連絡体制や消防署との連携も確立されている。夜間を想定した避難訓練の実施、非常災害時に備えての非常食等備蓄の補充も早急に解決する予定である。</p>	<p>非常災害時には、近隣住民の協力が不可欠であるので、運営推進会議を活かした協力要請や、避難訓練への参加呼びかけ等、より一層の協力体制の構築が望まれる。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にやさしい声がけをし、本人の持ったプライドを尊重している。	職員は、利用者を家族のような関係で敬愛し、居室に入る時、ものを尋ねる時等、一つひとつの場面に丁寧な声かけを心がけ、プライドを傷つけない優しい対応で利用者と関わっている。また、利用者の個人情報の資料の保管や職員間の守秘義務を徹底している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別でお話を伺い、本人の意見を尊重している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日個々の性格、心身の状況にあった生活を支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日本人の好きな服を着ていただき、整容も行っている。又化粧をする方はして頂いている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、食事の準備を一緒にしている。	月に1回の昼食レクレーションで、調理上手な職員の作る食事は、利用者の楽しみの一つで、下ごしらえ等を一緒に行っている。また、食後には、ソファで利用者と職員がくつろぎ、テレビを見ながら談笑し、ほのぼのとしたお昼の楽しいひとときである。	食事は、月1回昼食レクレーションとして職員が調理しているが、大半が配食サービスを利用している。買い物、下ごしらえ等、利用者と職員が出来るだけ関わり、調理し、食事をとる機会を少しずつ増やしていく事を期待したい。
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量チェックをしおり、個々に応じた分量にしている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、チェックし磨き残しがあれば、もう少し磨く様に促しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便チェック表をつけてパターンを把握している。又、随時トイレ誘導お声がけし、リズムを作っている。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、トイレで出来るだけ排泄できるよう職員全員で支援をしている。また、車椅子の方にトイレに座ってもらうためにどうしたらいいか、リハビリパンツの利用者が布パンツになるためには等、職員間で話し合いながら取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分摂取と運動を促しを援助を行っている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本週3回の入浴を行っている。又希望があれば随時対応していこうと思う。	入浴は週3回であるが、利用者の体調やその時の状態に合わせて、柔軟に対応している。また、入浴が嫌いな利用者には、無理強いせず、時間をおいて声かけしたり、職員が交代で入浴を勧める等、楽しい入浴になるよう努力をしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にあった状態や状況で休んで頂こうと思っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は施設で行っている。又常に状態変化に気をつけ様子観察を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や能力に応じたレクリエーションを実践している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	定期的又は随時外出をしており、又美容院なども家族の協力で出かけている。	玄関を出ると、緑の草原が広がり、自然に恵まれた環境である。鶏小屋で鶏を飼育し、利用者一人ひとりにプランターを用意する等、利用者が戸外に出るきっかけ作りを工夫し行っている。天気の良い日は、戸外にテーブルを出して食事をしたり、畑の手入れ等、戸外で過ごす時間も多く、生きがいのある充実した暮らしぶりである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人が財布を持っているかたは希望があれば買物援助を行っている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は申し出があった場合は自由にして頂いている。又手紙も書いて送っている。</p>		
54	2.2	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>天井は吹き抜けで圧迫感を感じさせない空間になっており、又天窓から程よい陽射しが入ってくる。</p>	<p>草原の中の木造平屋建ての建物は、広い敷地に鶏小屋や畑も整備され、どこか懐かしく温かな感じである。リビングは、吹き抜けや大きな梁で広々とし、利用者と職員のラジオ体操や歩行訓練の声で活気に溢れている。バリアフリーも各所に完備し、季節の花が飾られ、落ち着いて穏やかに暮らせる共用空間になっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間、食堂が兼用になっており、ソファも設置し、好きな場所でくつろいで頂いている。</p>		
56	2.3	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の今まで使って頂いたものや、好きなものをもて来て頂き使用してもらっている。</p>	<p>居室は、利用者や家族の希望を聴きながら、使い慣れた馴染みの家具や小物、家族の写真等を持ち込んでもらい、出来るだけ自宅と違和感なく穏やかに過ごしてもらえよう支援している。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーになっており、浴室やトイレ等も手すりを付け安全になっている。</p>		